



—— 男女が共に輝ける社会を考える —— パートナーシップセミナー

パートナーシップセミナーでは、男だから女だからという性別役割分担意識にとらわれることなく、誰もが輝ける社会を目指し取り組んでいます。

女性キャリアアップセミナー
今よりもっと輝く人になるために
「自分のキャリアを自分で描く描き方」

子育てや介護と仕事を両立しながらキャリアアップを目指す女性の皆さんを支援します。

日時 1月22日㊦ 13時30分～15時30分
場所 松橋東防災拠点センター
講師 オフィス UEMURA
代表 上村 眞智子 さん
対象 市在住・勤務の女性
定員 20人程度 **申込期限** 1月19日㊦
申込方法 右の申し込みフォーム
または電話 **申し込みフォーム**



昨年、10月2・16・30日の3回にわたり、身近な家事を男性に学んでもらう「男性の家事講座」を開催し、延べ17人が参加しました。参加者は、掃除や片付け、裁縫やアイロンがけ、料理に挑戦。参加者からは、「研修の場を提供していただき感謝しています」「家庭でもぜひやってみたい」「時間があればやりたい」という声が寄せられました。

みんなで学ぼうじんけん

生涯学習課 ☎32-1934

「ヒロシマ・ナガサキ・ピースメッセンジャー」として認知され、2018年からは、ノーベル平和賞にノミネート。「被爆者から実際の体験を聞ける最後の世代」という当事者の言葉を

高校生平和大使は、国連では「ヒロシマ・ナガサキ・ピースメッセンジャー」として認知され、2018年からは、ノーベル平和賞にノミネート。「被爆者から実際の体験を聞ける最後の世代」という当事者の言葉を

ひろみち 本田博通地域人権教育指導員が学校で働いていた経験などから「じんけん」の今をお伝えします



高校生平和大使

小・中学生が人権について学ぶ宇城市ふれ愛学習会に高校生平和大使を招きました。

「話を聞いてたくさん学ぶことがあります。それは自分が生きていられるだけでも、とても幸せなことだし、1日1日を大切に過ごすということですね。私はこれからずっと、自分の生きていくこと自体がきせきで、本当に幸せだと思つて、だれかのために、生きていきます」 小学6年生

九州学院高等学校2年生の福原杏さん。熊本県の高校生平和大使として活動されています。

長崎県出身のお母さんに幼い頃から、原爆や戦争についての話を聞いて育ったという福原さんは熊本県の選考会を受け、第24代の大使となりました。冒頭の作文は、福原さんが読んでくれた熊本本の被爆者の紙芝居と講話の感想です。

毎月上通りや、下通りで署名活動が続いている福原さんたち高校生の姿を見つけたら、あなたも参加し、平和な世界の実現を願う想いをスイスに届けてみませんか。

返してくれました。

胸に、さまざまな活動に取り組まれています。1万人を目標に始めた核兵器の廃絶を求める署名は現在205万3840筆になり、国連欧州本部に永久保存されているとのこと。

お話を聞いて、中学生がこんな感想を出しました。「私は日曜日にある狭山集会に参加します。行くのは3回目なのですが、いつも恥ずかしいと思つてしまいい、パレードの中で歩くことがきついというか、中々手を挙げるのができません」。福原さんはこれに「私も恥ずかしがりやで、最初大きな声を出して、署名を呼び掛けることができませんでした。でも何のためにするのかと考えた時、原動力になるのがこの活動だと思い、声が出るようになりました。皆さんにとっても集会に参加して手を挙げることをなぜするのかと考えて頑張ってみてください」と



市長からのメッセージ

消費者トラブルに遭わないために

- ・今どのようなトラブル事例が多いのか
- ・被害にあったらどうしたらよいか

被害を防ぐためには、具体的な事例や対処法を知っておくことが大切です。市では、このコーナーや出前講座で、消費者に起こっているトラブル情報を提供しています。また、被害にあった場合の救済や対処方法などを相談できる消費生活センターを開設し、「消費者の自立」を支援しています。困ったときにはすぐにご相談ください。被害の未然防止や早期発見のために、地域全体での見守りや声掛けにも努めていきましょう。

宇城市長 守田憲史

相談は 宇城市消費生活センター ☎33-8277 へ

郷の記憶をたどる

文化振興課 ☎32-1954

私たちが暮らす宇城市の郷土にまつわるさまざまな文化の魅力を発信します

常設展示 郷土の民具

海苔漉き機



郷土資料館では、市内の歴史的な資料や古文書などを常設展示しています。今回は、その展示の中から「海苔漉き機」をご紹介します。これは、板海苔を作るための道具で、江戸時代から昭和初期まで使われていた民具です。

熊本は国内有数の海苔の産地。私たちにとって身近な海産物である海苔の歴史は、1300年前の奈良時代にまでさかのぼります。当時は、租税の対象や貢ぎ物として扱われ、一部の貴族の口にしか入らない高級品でした。

郷土資料館



開館時間 10時～17時
休館日 月・木曜(祝日の場合はその翌日、年末年始1月4日まで)
住所 豊野町糸石3818 ☎45-2102



海苔を束にするための道具㊦
海苔たたき㊧

江戸時代になると、海苔好きだった徳川家康に献上するために養殖が始まり、江戸中期には現在のような板海苔が登場。四角い箱の御簾の全面に海苔を流し込んで水分を落とし、天日干しで乾燥させて作るようになりました。また、「海苔巻き」が江戸で大流行。庶民の間でも親しまれるようになり、商人を通じて全国に広まっていきました。

民具一つをとっても先人の知恵を感じ、郷土の歴史を学ぶことができます。同館では農具や生活用品、考古資料なども展示。ぜひご来館ください。